

農薬のPR

農薬産業の未来はバラ色であろうか。海外の大手化学メーカーの多くが、農薬部門を強化するため、多額の研究投資を行なっている。国内では新たに農薬開発に参入してくる企業も多い。

こうした中で、新農薬を世に出すための莫大な研究開発費と、それに伴うリスクの増大が企業経営に重くのしかかってくる。化学物質の場合、単独企業で特許をとり、世界市場をカバーするケースが多いが、これからはリスクの分散から、複数企業による共同開発のケースも増えてくるかもしれない。それにつけても、新農薬がその性能を十二分に発揮し、しかも長もちするように、地道な普及努力が肝要である。各企業は、それぞれ独自品について、その製品の良さを、色々な角度から強調し、指導機関・流通機関・使用者等にPRする場合、農薬という商品の性質上、既存品、他社品と比較してPRすることが多い。ところが時たま、これでは足の引っぱり合いではないかと思うようなことを耳にすることがある。これはまさに自殺行為である。フェアな競争と協調により、業界がより健全に発展し、使用者のニーズに応える新製品を世に出して行かねばならない。現在の業界は、研究開発の強化、海外市場対応、価格問題等々、難問が多いが、国内外共通の問題として、農業者は勿論、一般消費者にも、農薬の必要性和安全性とを正しく認識し、理解してもらうための、資料の整備、PRが強く望まれる。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事 渋谷正弘〕
〔日本農薬株式会社 常務取締役〕

目次 (第18巻第3号)

水系での除草剤の安全性について…………… 2

＜前 植調研究所長 鈴木照磨＞

1. はじめに…………… 2
2. 水田水中の除草剤濃度の変化…………… 3
3. $C = 3985e^{-0.4} - 4000e^{-0.8} + 15e^{-0.1}$ を解析する…………… 4
4. 水田からの除草剤の蒸発(1)…………… 6
5. 水田からの除草剤の蒸発(2)…………… 7
6. 水田水中からの減衰と水田水への溶出…………… 8
7. 土壌への吸着と土壌からの脱出…………… 9
8. 再び水田水中の除草剤の濃度式について…………… 11
9. 排水の水系中の除草剤濃度の変化…………… 11
10. むすび…………… 14

チャ栽培における生育調節剤の利用…………… 16

＜茶業試験場栽培部 青野英也＞

昭和58年度春夏作野菜花き関係除草剤・生育調節剤試験成績概要…………… 23

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞

- 昭和58年度春夏作野菜花き関係除草剤・生育調節剤供試薬剤および判定表…………… 23
- I 除草剤…………… 23
 - II 生育調節剤…………… 42
 - III 前回未検討・未提出分除草剤…………… 47
 - IV 前回未検討・未提出分生育調節剤…………… 49